

テーマ：『 大岡川の生きものとふれあい、自然を大切にしようとする心を育てる 』

横浜市立 南小学校

Tel. 045-731-0373 担 当 宮川大輔

者：



#### ■実践内容：

前年度に大岡川水族館を整備し、生きもの観察クラブも発足した。そこで今回は、現在使われていない岩石園の池の整備拡張や花壇を改造して池として活用し、そこに大岡川の生きものを放し、ビオトープを作り、理科や総合学習での観察池とした。使われていない花壇から土を出し、セメントで水漏れを防ぐために固め、荒木田土や赤玉土を投入し、さらにキショウブやガマなどの水質浄化に役立つ植物を移植した。また、岩石園の整備拡張では、狭かった水場を広げるため、セメントで下地を作り、荒木田土を盛って、ビオトープのようにしている。完成後に放したアマガエルのオタマジャクシが成体となってすみついている。

完成後、定期的に行われている大岡川清掃に参加するのとあわせて、生きもの観察クラブの児童を中心に大岡川の生きものを捕獲してクロメダカやカニ、スジエビ、ヌマエビ、カエル、オタマジャクシなどを岩石園やビオトープに放流した。

#### ■実践成果：

花壇の改造や岩石園の拡張では、昨年度発足した南小おやじの会にも協力要請し、地域や保護者を巻き込んだ活動となった。その中で児童は、大岡川ファンクラブの方などから生きものや自然に関する知識を作業をしながら学ぶことができた。また、自分たちが学習や遊びで使っている川を大切にしなければいけないという自覚も強まり、大岡川清掃やリバーウォッチングなどのイベントに参加する児童数が増えてきた。さらに、以前なら生きものをとれただけ帰ろうとしていたのだが、「飼える分だけ」にするという態度の変容も見られた。

整備したビオトープでは、休み時間などに水の中をのぞき込むなど、低学年の児童を中心に関心を集めている。さらに、理科や生活科などの観察でクロメダカの様子や周りに生えている植物の観察、そこへ飛んできた虫たちの様子をじっくり見ることができるようになった。身近にあることで、ちょっとした変化にも敏感であり、豊かな自然感を養う助けとなっていることは間違いない。

#### ■実践ポイント：

今回は、児童と教職員だけで活動するのではなく、地域や保護者にも声をかけ、手伝って頂いたことが大きかった。みんなで作り上げた環境を大切にしていこうとする気持ちや、地域の環境をまもっていこうとする態度を育てるよいきっかけになった。